

「拉致被害者 忘れないで」



横田早紀江さんのビデオメッセージを視聴する鶴川中の生徒ら 12日午後、東京都町田市 (古厩正樹撮影)

東京の中学で出前授業

新聞を教育に活用するNIE(ニュースペーパー・イン・エデュケーション)の一環として、北朝鮮による拉致問題をテーマとした「出前授業」が12日、東京都町田市の市立鶴川中学校(岩田敏行校長)で行われた。産経新聞東京本社の中村将・社会部長が講師となり、1年生約190人を前に「皆さんができることは、拉致問題を知り、助けを待つ被害者の存在を忘れないことです」と呼びかけた。

中村部長は拉致の理由について、北朝鮮工作員が海外で活動しやすいよう連れていった日本人になりすぎたり、日本語を工作員に教える教師役をさせたりする目的があったと指摘した。

また、横田めぐみさん(54)＝拉致当時(13)＝が生徒たちと同じ中学1年で拉致され、工作船の暗い船倉で指を血だらけにして壁をかきむしり助けを求めたことや、母の早紀江さん(82)が姿を消したためめぐみさんを必死に捜した経緯を説明し

「大切な家族がいなくなることは悲しみにくれるというレベルの話ではない」と強調した。

早紀江さんは同校生徒のために寄せたビデオメッセージで「皆さんの後ろに暗い闇がある。一生懸命勉強して、拉致問題を考えてほしい」と呼びかけた。